

令和 6 年 6 月 24 日現在

機関番号：62608

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K13084

研究課題名（和文）判官物の語り物の基礎的研究 幸若舞曲・説経・古浄瑠璃の影響関係の究明

研究課題名（英文）Fundamental research on the narrative of Hoganmono: Elucidation of the influence of kowakamai, sekkyo and kojoruri

研究代表者

条 汐里 (Kume, Shiori)

国文学研究資料館・研究部・特任助教

研究者番号：50838050

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：16～17世紀に流行した語り物である幸若舞曲、説経、古浄瑠璃の影響関係を、判官物という視点から分析し、これらの文芸が同時代の文学、美術、芸能、民俗に与えた影響を解明すべく（1）国内外の判官物作品の調査、書誌・画像データの収集、（2）語り物の判官物の上演記録の調査、（3）語り物の判官物テキストの比較検討、（4）判官物絵画の比較検討、の四つの段階に分け、資料の悉皆調査および作品研究を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年の判官物研究は、義経の生涯を軸に全体像を捉えようとするあまり局所的になりがちであり、広い視野にたち、登場人物や作品中のエピソードが示す象徴性や寓意性、日本文化において多様な判官物が求められた意味を分析する研究が不十分であった。本研究で着目した異本系統の『常盤問答』、およびその周辺作品と目される『常盤物語』などの、いずれも義経の母・常盤を主人公とする作品群にみえる女性の穢れと救済、妊娠や出産にまつわる文脈を読み解き、そこにどのような意味が籠められ、後代に継承されていったのかを分析することで、これまでの判官物作品の読み方をぬりかえ、新たな一面を見いだすことができる。

研究成果の概要（英文）：Analyzing the influence relationships of narrative arts that were popular in the 16th and 17th centuries, such as *waka-mai*, *Sekkyo*, and *kojoruri*, from the perspective of *<Hogan-mono>*, we aimed to elucidate how these literary arts influenced the contemporary literature, art, performing arts, and folklore. To achieve this, we divided our research into four stages: Investigating *<Hogan-mono>* works both domestically and internationally, and collecting bibliographic and image data, Researching performance records of *<Hogan-mono>* in narrative arts, Conducting comparative studies of *<Hogan-mono>* texts in narrative arts, and Conducting comparative studies of *<Hogan-mono>* paintings. Through these stages, we conducted a comprehensive investigation of materials and works.

研究分野：日本中世文学

キーワード：幸若舞曲 説経 古浄瑠璃

1. 研究開始当初の背景

〈判官物〉とは、平家追討に尽力しながらも兄の頼朝に疎まれた悲劇の英雄・源義経、およびその周辺人物を題材とした作品群のことである。〈判官物〉は長きに渡り、様々な古典作品の題材となったが、15～17世紀に物語草子や軍記『義経記』が生み出され、最も華やかな時代を迎えた。中でも多くの〈判官物〉を生み出したのが語り物というジャンルである。

語り物とは口頭で長編の物語を語る芸能、および、それを挿絵入りの読物にした文芸で、鼓に合わせて舞語りをする「幸若舞曲」、^{さまら}箏を楽器に哀切な物語を語る「説経」、太夫の語りに合わせて人形芝居をする「古浄瑠璃」の三つが代表的である。

語り物の〈判官物〉には義経の誕生から死までを時系列で語るという「連作性」があるが(山下宏明「幸若舞曲の連作性」『軍記の方法』有精堂、1983/阪口弘之「街道の牛若物語—近世初頭の浄瑠璃の語られ方」『形成される教養 十七世紀日本の〈知〉』勉誠出版、2015)、義経の人生のどのエピソードを語るのかは幸若舞曲、古浄瑠璃、説経によって個性があり、一様でない。一方で互いの作品を前提とする共通の〈判官物〉世界が存在し、三者の関係は複雑かつ未整理の状態である。また同時代には義経の青年期を描くお伽草子(『天狗の内裏』『みなづる』『御曹子島渡り』)や、晩年のみを描いた絵巻(『義経奥州落絵詞』)、義経の一代記とされる『義経記』といった文学作品が続々と誕生、流布したが、これらと語り物との影響関係についての言及は一部に留まり、十分に論じ尽くされていない。

16世紀末期になると語り物は挿絵を伴い絵巻や絵入り本として人気を博す。中でも〈判官物〉を題材とする作品は、大阪青山歴史文学博物館蔵『鎌田』『烏帽子折』、ニューヨーク市立図書館スペンサーコレクション蔵『屋島尼公物語』、サントリー美術館蔵『浄瑠璃御前物語』など、16世紀末期に溯る古い作例が目立つ。これらは「口頭の語り物をなぜ読み物化するのか」という、絵巻、絵入り本という媒体が出現する文化的背景を問う意味でも、極めて貴重な資料群である。

これまで筆者は説経、古浄瑠璃に限定して、17世紀初期に作られた演目の成立解明、説経、古浄瑠璃を題材とした絵画作品(絵巻・絵入り本・屏風)の調査を行ってきた。研究を進めるにつれ、同時代の幸若舞曲との内容の共通性、語り物同士の影響関係を整理しなければ明らかにしえない作例を発見し、文字テキスト・絵画双方において、幸若舞曲を無視しては説経、古浄瑠璃の特質を理解することはできず、三つのジャンルを俯瞰的にみる視点が必要との結論に至った。

2. 研究の目的

現在、幸若舞曲は約40作品(『幸若舞曲研究』別巻、三弥井書店、2004)、説経、古浄瑠璃にいたっては約300作品もの演目が伝わっている(若月保治『古浄瑠璃の研究』1～4巻、桜井書店、1943—44)。こうした多数の作品を総合的に分析するためには、まずは〈判官物〉という軸をもうけ、さらに同時代の文学作品をも比較対象とし、語り物の諸相を整理する基礎的な研究段階が求められる。また文字テキストだけでなく、絵画作品の生成と享受を考究することによって、芸能史、文学史に留まる語り物論を美術史にまで広げ、定点観測的に語り物の特質を明らかにする必要があると考える。

上記のような資料の現存状況をふまえ、本研究では、16～17世紀に流行した語り物である幸

若舞曲、説経、古浄瑠璃の影響関係を、〈判官物〉という視点から分析し、これらの文芸が同時代の文学、美術、芸能、民俗に与えた影響を解明することを目的とする。その際、文字テキスト中心の分析ではなく、語り物を題材とする絵画資料としての語り物文化の発達にも注目し、文字と絵の双方から、語り物の文学史における意義を明らかにする。

3. 研究の方法

本研究では、〈判官物〉に分類される語り物（幸若舞曲、説経、古浄瑠璃）の作品について、次の（１）～（４）四つの段階で研究を推進した。

（１）国内外の〈判官物〉作品の調査、書誌・画像データの収集

〈判官物〉の語り物テキスト、および周辺作品のテキスト調査を行う。重要なテキストはすでに『幸若舞曲研究』1～10巻（三弥井書店、1979—2004）、『説経正本集』1～3巻（角川書店、1968）、『古浄瑠璃正本集』（角川書店、1964—1982）に収録済みであるが、新出本や地方に伝来したテキスト、および、海外に所蔵される絵巻や絵入り本は、調査の手が及んでいない。これらに関して現地に赴き、原本調査を行い、書誌、画像データの収集を行う。また語り物でなくとも、（３）の比較対象となる『義経記』やお伽草子の〈判官物〉についても必要に応じて調査する。加えて、従来テキストが付随しないために調査の対象外となっていた、（４）で扱う屏風や扇面画などの絵画資料についても調査対象とする。

（２）語り物の〈判官物〉の上演記録の調査

市古貞次『中世文学年表 小説・軍記・幸若舞』（東京大学出版会、1998）をふまえつつ、いまだ調査が及んでいない文書を参照し、新たな語り物の上演・観劇・読書環境を構築する。調査対象としては、まず翻刻・刊行済みの記録類から芸能記録・読書の記事を抽出し、Excelファイルに入力する。収集したデータを地域ごとに分類し、全国各地の上演の動向を考察する。

（３）語り物の〈判官物〉テキストの比較検討

（１）で調査収集したデータを元に、テキストの翻刻・注釈を行い、題材を同じくする語り物テキスト同士を比較検討する。幸若舞曲、説経、古浄瑠璃の本文異同をリスト化した後、その結果をお伽草子、『義経記』、『義経奥州落絵詞』との比較検討に用い、語り物と他の文学作品との相関関係を明確にする。

（４）〈判官物〉絵画の比較検討

（１）～（３）のテキストと上演記録の精査が済み次第、絵画の検討に入る。（１）で調査収集した絵巻、絵入り本の挿絵、屏風、扇面の画像データを作品ごとに分類し、各場面を比較することで絵の系統分析を行う。

4. 研究成果

以下、調査した〈判官物〉作品ごとに、研究成果を述べておく。

①異本系『常盤問答』

異本系『常盤問答』とは、源義経の母・常盤御前を主人公とする、幸若舞曲、古浄瑠璃の一伝本である。2019年度より常盤御前と高僧の仏法問答を主題とする幸若舞曲『常盤問答』の悉皆調査に取り組み、関連する文芸作品の整理と分析を行った。特に注目した書物群は、主に西日本

に流布し、従来知られてきた幸若舞曲の伝本と異なる内容をもつ異本系統の『常盤問答』写本 8 点である。当該研究では、これら 8 点の書誌調査をふまえ諸本を分類し、個々の伝本の内容を 41 の構成要素に分け分析を行った。

その結果、異本系統の『常盤問答』の本文には、中世社会に流布した『血盆経』や、『伊勢物語』注釈書、中世神道書に記される女性の穢れと救済、男女の営みと人間の誕生といった生殖に関する記述との関連が認められることがわかり、これら異本系統が、女性の存在意義を正当化するために制作され、中近世社会に流布していたことが明らかになってきた。上記の研究結果は、2021 年 5 月 14 日の芸能史研究会 5 月例会 (Zoom オンライン) にて「異本系『常盤問答』と『常盤物語』」と題し発表したほか、本研究の主要な成果物である『中近世語り物文芸の研究—信仰・絵画・地域伝承—』(三弥井書店、2023 年 2 月刊行) に、第一部第三章「異本『常盤問答』考」として収録した。また、書籍の刊行後、新たに 2 点の資料が見つかっている。最終年度において、すべての書誌調査を終えることはできなかったため、今後は、これらの新出伝本を調査した上で、異本系統の『常盤問答』の本文の元になった思想や文献との関連の解明に、引き続き取り組みたい。

②逸翁美術館蔵『〔牛若丸烏帽子絵詞〕』

『烏帽子折』は、源義経の元服を主題とした幸若舞曲の一作品である。2019 年度に諸本を調査し、他の伝本の本文と比較し、その本文系統と成立背景を明らかにした。この最古の絵巻群としては手銭記念館所蔵の、屏風に張り付けられた『烏帽子折』の絵巻、逸翁美術館蔵『〔牛若丸烏帽子絵詞〕』(零本)、国文学研究資料館が所蔵する断簡一枚がある。2019 年度に逸翁美術館蔵本と、国文研蔵本の原本調査を終えることができたので、手銭記念館蔵本を含めた 3 点の絵巻本文を比較検討し、最も状態の良い手銭記念館蔵本を中心に、この絵巻群の成立背景について小林健二『絵解く 戦国の芸能と絵画—描かれた語り物の世界—』所収、「手銭記念館蔵 烏帽子折物語絵巻貼付屏風 解題・翻刻」(三弥井書店、2020 年) にて報告した。また、その成果の一部を The 3rd EAJS Conference in Japan (2019 年 9 月 15 日、於筑波大学) にて「On the Fragmentary Illustrated Scroll Eboshi-ori monogatari emaki (National Institute of Japanese Literature)」と題し発表した。

③国文学研究資料館蔵『た〔かだ〕ちおち』

国文学研究資料館蔵『た〔かだ〕ちおち』一冊は、源義経の最期を描いた『高館』『含状』が一体となった本文を有する特異な写本で、同様の形式をもつ伝本としては『高館』の最古写本である大方家蔵本(天正 14 年(1586)以前成立)が知られるのみであった。まず書誌調査を行ったのち諸本リストを作成し、本文の全文を翻刻し、その成果を『国文学研究資料館紀要 文学研究篇』47 号「国文学研究資料館蔵「たかだちおち」解題・翻刻」(2021 年 3 月) に発表した。また、新型コロナウイルスの流行によって他機関への出張、調査が制限されたこともあり、『た〔かだ〕ちおち』のほか、所属する研究である国文学研究資料館に所蔵される幸若舞曲の作品を中心とした調査研究を重点的に行った。国文学研究資料館が所蔵する幸若舞曲作品および関連資料 41 点の原本を調査した。また、当初の研究計画にはなかったが、国文学研究資料館が所蔵する 41 点の幸若舞曲関連資料に個人蔵の資料 3 点も加え、企画展示「戦国武将たちの愛した文学—幸若舞曲—」(会期: 2020 年 11 月 4 日(水)~12 月 25 日(金)、場所: 国文学研究資料館 1 階 展示室、主催: 国文学研究資料館、入場無料) というかたちで成果の一部を一般に公開した。展示の概要については『国文学ニュース』No.58 (2021 年 1 月 20 日発行) で報告した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 糸汐里 | 4. 巻 69 |
| 2. 論文標題 広島県立文書館寄託尼子家文書蔵「常盤之前鞍馬問答」 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 伝承文学研究 | 6. 最初と最後の頁 80-90 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 糸汐里 | 4. 巻 47 |
| 2. 論文標題 国文学研究資料館蔵「たかだちおち」解題・翻刻 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 国文学研究資料館研究紀要 文学研究篇 | 6. 最初と最後の頁 173-206 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|-----------------------|
| 1. 著者名 糸汐里 | 4. 巻 46 |
| 2. 論文標題 説経・古浄瑠璃を題材とした絵画資料について | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 国文学研究資料館研究紀要文学研究篇 | 6. 最初と最後の頁 119-151 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

| |
|-----------------------------|
| 1. 発表者名 糸汐里 |
| 2. 発表標題 『ときわ物語』について |
| 3. 学会等名 伝承文学研究会第484回東京例会 |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|-----------------------------|
| 1. 発表者名 桑汐里 |
| 2. 発表標題 異本系『常盤問答』と『常盤物語』 |
| 3. 学会等名 芸能史研究会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 谷川恵一・桑汐里・恋田知子・神作研一・宮本祐規子 |
| 2. 発表標題 Picture Scrolls and Illustrated Books in 17th Century Japan (担当した発表の題目「On the Fragmentary Illustrated Scroll Eboshi-ori monogatari emaki (National Institute of Japanese Literature Archives)」) |
| 3. 学会等名 The 3rd EAJS Conference in Japan (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

〔図書〕 計4件

| | |
|---------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 桑汐里 | 4. 発行年 2023年 |
| 2. 出版社 三弥井書店 | 5. 総ページ数 412 |
| 3. 書名 中近世語り物文芸の研究 信仰・絵画・地域伝承 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 桑汐里 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 三弥井書店 | 5. 総ページ数 213 |
| 3. 書名 小林健二編『絵解く 戦国の芸能と絵画』(執筆担当:「手銭記念館蔵烏帽子折物語絵巻貼付屏風 解題・翻刻」) | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 桑汐里 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 勉誠出版 | 5. 総ページ数 272 |
| 3. 書名 島尾新・宇野瑞木・亀田和子編『和漢のコードと自然表象』（執筆担当：「十七世紀の語り物にみえる自然表象 道行とその絵画を手がかりに」） | |

| | |
|-----------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 入口敦志、落合博志、神作研一、桑汐里編 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 国文学研究資料館 | 5. 総ページ数 63 |
| 3. 書名 国文学研究資料館企画展示「本のかたち本のこころ」 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

| |
|---|
| <p>創立50周年記念展示 こくぶんけん 推し の一冊『常盤鞍馬破』 https://www.youtube.com/watch?v=LVg5tmhkBhg コロナ下での「人文知コミュニケーション」の未来 https://www.nihu.jp/ja/publication/nihu_magazine/067</p> |
|---|

| 6. 研究組織 | | |
|---------------------------|-----------------------|----|
| 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| | |
|---------|---------|
| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|